

浄土真宗

蓮華座

報告

正定寺住職継職

第五代から第六代へ

正定寺第五代住職 尼子 玄章

梅雨あけが待たれますこの頃、門徒の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

令和二年度をむかえ、正定寺では第五代住職（尼子玄章）から第六代（尼子鴻志）への住職継職の手続きを始めております。今年四月、宗教法人正定寺責任役員会・総代会をひらき、今年度内に住職継職の事務手続きを完了することを提案、全会一致の了承を得ました。

住職継職には、本願寺・法務局・宮崎県・都城市への段階的な手続きが必要です。

門徒の皆様には今日初めて住職退任・継職の手続きを開始したことを報告するのですが、わたくしは四年前から決断しておりました。

住職退任・継職の理由

【理由一】 わたくしが正定寺住職に就任しましたのは、一九九〇（平成二）年五月、三十八才（父・章長六十八才）の時でした。わたくしは現在六十八才、三十年が経ちました。自分自身が病氣や死亡で住職を譲るのではなく、しっかり後見人として時間を持ち六代目を育てていくには、今が好機と判断しました。坊守も門徒会長ならびに総代会も賛成してくださいました。

【理由二】 二〇一八年春に大病を患い完治しましたが、あまり体力に自信がありません。これからは無理をせず、浄土真宗の教えをみずからも喜び、門徒の皆様にお伝えしていきたいと願っております。

【理由三】 副住職（尼子鴻志）は、現在四十才、若坊守（千懐）共々にこれからの成長を期待しております。僧侶の一番大切な仕事は、みずからの信仰心をごまかしなく深め、たえず本物の教学を学び、自己を磨き、自己脱皮しながら求道することです。自己革新の脱皮と求道心なくして浄土真宗の教えを人びとに伝えることはできません。わたしは今日の本願寺教団の教学や伝道のあり方に疑問を持っております。超高齢化社会・人口減少社会のなかで、お一人お一人の門信徒に「お念仏もうす人生」の安らかさ・豊かさをお伝えできない今日の

教団の現状や布教のあり方に、強い危機感を持っていきます。息子にはそう言ってほしくない。「鉄は熱いうちに打て」と言います。若さと伸びしろのあるうちに責任ある立場に立ってほしいのです。

そしていつも正定寺の護持・運営の全般を見渡し門徒全体に心をくばる人に育ってほしいと思っています。本人も、二〇一四（平成二六）年十一月、正定寺に婿養子として入寺して以来、一所懸命よく努め、後継者としての責任感と自信も少しずつ育ってきました。総代さんはじめ門徒の皆様からも愛情をもつてささえていただいております。お陰様でお寺の活動も若返ってきました。有り難いことです。どうぞ、今後とも副住職をお育てください。

【住職継職法要について】 今年秋までにまず本願寺への手続きをすませます。ただし、「第五代住職退任・第六代住職継職」の法要については来年度以降にします。明るい未来に向かって、しっかりと万全の準備し、全門徒の喜びのなかでお勤めしたいと願っております。

【お願い】 第五代住職という立場からは退任するわたくしですが、一僧侶としてこれからも正定寺をささえていきます。仏教の教えはどこまでも深いので六十代・七十代になって初めて見えてくる世界もあります。今後ともよろしく願います。合掌

令和二年七月豪雨 熊本教区へ復興物資を支援

■ 七月九日（木）、宮崎教区・若潮会（四十才未満の青年僧侶の会 会長・尼子鴻志 正定寺副住職）は教区内八十七ヶ寺に「令和二年七月豪雨で被災した熊本教区への復興支援物資」の拠出を依頼しました。二〇一六年の熊本地震へのお見舞い・復興支援ボランティアで、熊本教区の青年僧侶とふとい情報網をもつ副住職は、県境をまたいでボランティアができない現状で、現地ボランティアが今必要としている物資を宮崎県内で募集し、お届けしようと思ったのです。

■ 七月十日（金）十三時半 これをうけて正定寺では、住職・副住職・門徒会長の三名で対策会議。

ダーナ緊急会議をすることになり、緊急電話連絡網をつかい、総代・仏婦幹事に招集連絡をしました。

■ 七月十一日

（土）十三時半

住職・副住職・

門徒会長・総代

四名・仏婦幹事

十三名（計二十

名）が集合。副

住職が今回の熊

本教区復興支援

活動を提案しま

した。

ダーナ会計か

らのお見舞い義

援金の支出は別

におこなうこと



支援物資を仕分ける正定寺仏婦

として、今回はダーナ会計から、一人二〜三千円程度、必要物品をホームセンターやドラッグストアなどから買い集めてくることにしました。消毒液など一人一個までとお店で購入制限されている商品もあるのが人海戦術で動き、領収証をもらい精算する方法をとりました。角スコップ・ゴム手袋・マスク・消毒液・ウェットシート・雑巾等々、いま熊本県内のボランティアが必要としているものを、七月十四日に届けることを確認。県中部ならびに県北の支援物資は、宮崎市の宮崎別院へ集合。県南部の物資は正定寺に集合。最終的に、全体を正定寺に集合させて、七月十四日に若潮会会長&有志が現地にお届けすることになりました。話し合いは四十分で終わり、「さあ、もう今日の内に車に乗り合わせて買いに行こう」といそいそと動き出す頼もしい総代・仏婦。わたし（住職）も角スコップ二本・土嚢袋百枚を買いにハンズマンに行きますと、レジの列はにこにこ笑顔の正定寺門徒だらけ。

■ 七月十二日（日）の九時・十時の本堂内勤でも、住職法話の中で「熊本復興支援」を呼びかけ、JAや郵便局などから

もらったタオル

（未使用）があっ

たら、寄付してく

ださいません

かとお願ひした

ら、早速十三日

には、次々とタ

オルが届きまし

た。

■ 七月十三日

（月）若潮会

メンバーの五條

さん（高崎・善性寺若院）・大



左から五條・大河内・尼子・岩崎さん

河内さん（庄内・願心寺若院）は、宮崎市内や県北から寄せられた支援物資を本願寺宮崎別院にもらいに行きました。十三時半からは、正定寺総代・仏婦が集まって、支援物資の仕分け・分類リスト作り・箱詰めを担当。

■ 七月十三日（月）

夕方には、副住職・

五条さん・大河内さ

ん・岩崎さん（小林・

浄信寺若院）が集ま

って最終点検し、運搬

車両に乗せ

ました。（運搬車両は、

十二日の十時にお参

りされたのです。）

荷台満載の支援物資。

緊急のお願いにご協

力くださいました。

寺院様・門徒様、あ

りがとうございました。

■ 七月十四日（火）

九時 副住職と大河

内さんが被災地に向

かって出発。現地僧

侶ボランティアの拠

点である吉市・本願

寺人吉別院様・津奈

木町・光明寺様に

支援物資を届け、

十八時に無事帰山



県内から集まったトラック満載の支援物資

■ 台風シーズンです。正定寺門徒会では、お寺を中心に門徒の災害被災状況を把握しながら、お見舞いや支援活動もしていきます。去年九月の台風では、上馬渡は停電が十日間も続きましたが、同じ都市内でも被災や・停電の状況がばらばらで把握できず、十分なお見舞い・支援ができませんでした。門徒の皆様と連絡をとりあいながら、災害をのりこえていきたいと思っております。

正定寺住職

お盆法要のお知らせ

お盆の法事について、ご案内いたします。法事のおつとめには、三つの方法があります。

- 1) 家庭でのお盆法要。家庭に、住職・親戚をまねいておつとめする。
お寺への予約状況は、まだゆとりがあります。8月7日までに、お寺にお申込み下さい。
- 2) お寺の門徒会館をかりて、日時を予約し、おつとめ・会食する別修法事。
予約受付中ですが、13・14・15日の予約は埋まりました。
- 3) 家族でお寺にお参りする。ただし、密集にならないよう参拝人数をご配慮ください。
例年13日・14日の10時にお参りが集中して、毎年たいへん混雑します。

新型コロナウイルス感染予防のため、三密（密集・密閉・密接）をなるべくさけるよう、8月7日（金）～15日（土）に日時をずらす方法もあります。お寺にご相談ください。

【お寺へのお盆参りの場合】

- 一、 8月13日 あさ9時・10時・11時
14日 あさ9時・10時・11時
15日 あさ9時・10時・11時
お盆の三日間にかぎり、午前11時にもおつとめをします。
- 二、 仕事の都合などで初盆をおつとめする日を変えたい方は、お寺にご相談ください。
◎ 平常のお参り時間 あさ9時始め・10時始め

正定寺オンライン法事の開設

- 都城市を離れて生活されている正定寺門信徒（離郷門徒）で、コロナ感染防止のため家族の初盆や法事に帰郷できない人のために、ZOOMによるオンライン法事を開設しました。テレビ電話会議と同じシステムです。ZOOM無料アプリはネットからダウンロードしてください。
- 法事の会場は正定寺本堂です。ZOOMによる参拝・読経・法話・茶話会です。「正信念仏偈」は、住職HP「アミダネット」のトップメニュー「正定寺オンライン法事」からダウンロードできます。
- 住職と何回かメールで連絡をとりあつて日時を決定し、準備をしていきます。
- 内容は、家庭での法事と同じく六十分です。オンライン法事は非公開です。
- 正定寺オンライン法事の問合せ・申込みの窓口は「アミダネット」です。ヤフーやグーグルの検索で「amidanet」と入力してください。
- アミダネットでは法話を聞くことができます。正定寺の日々の活動を知ることができます。

正定寺 電話 0986-64-2078

なやみじと相談電話

詳しくは「**amidanet**」 <https://amidanet.sakura.ne.jp/>